

託児ボランティア「ソレイユ」

市が実施する各種講座などで、託児を担うボランティア団体。託児のほか、毎月第4金曜日に谷和原公民館・谷原分館で子育て支援イベント「かんがるひろばサロン」を主催している。また、きらくやまふれあいの丘すこやか福祉館内の子育て支援室「こどもひろば」での活動「ハッピーデイズ」や、子育て世代が皆で楽しめる「赤ちゃんフェスタ」も主催するなど、活動の幅を広げている。平成24年4月発足。会員数は29人。



託児ボランティア「ソレイユ」代表

ほだいじ もとこ
菩提寺 宗子 さん

合って、友達もできました。

今、子育てをしている方で、家の中にこもりがちな方がけっこういると思います。外との接点が少ない、自分の子どもしか見えていないというお母さんが多い気がします。

そういう方も、乳幼児健診の時は外に出てきますから、そういうときに健診の場所とかにソレイユのチラシをおいて、お知らせできればいいなと思いますね。

子どもやお母さんの成長を見守ることがすごくうれしい

市長 ボランティアをしていてやりがいを感じるのとはどんなときですか。

加藤 お子さんが3カ月〜4カ月くらいの頃から、「かんがるひろばサロン」にずっと来てくれていた方がいたんです。

そのお子さんが大きくなって幼稚園に行った方に、たまたま近所でお会いして「あら、しばらくね」って話になったんです。「ああ、あの子がこんなに大きくなったのね」とうれしく感じましたね。本当に、お母さんもママとして一緒に成長されていて。そんなときに「私たちも少しは役に立てたのかな」と思うんですよ。

菩提寺 うれしいのは、以前「かんがるひろばサロン」に来てくれていたお母さんに、街で偶然お会いしたとき、「あのときのメンバーでまた集まりたいです」と声をかけてくれることです。同窓会を開いてくれるんですよ。あのとき行ってた世代の人たちに声かけるので、一緒にお茶しましょう、と。それはもう、主催者冥利につきますよね。

あとは、なんとなく元気がな



かとう みさ子 さん

いお母さんが、ふとしたとき、自分のご家庭のことを話してくださったりね。聴いてあげるだけで、ほっとするんですよ。

一人で抱え込んでいる悩みを、親の代わりみたいにして、すごく打ち解けて話してくれる。そんなときは、その人をぎゅっと抱きしめてあげる。それがとってもうれしくて。

市長 地元の親代わりっていう感じですよ。

菩提寺 はい。そんなとき、か

子育て支援室の充実がプラスに働いている

市長 市としては、子育て環境と教育環境の整備に力を入れていくつもりですが、皆さんが今、活動されている中で、子育て世代を取り巻く環境について、感じていることをお聞かせください。

岡本 子育てガイドブックが良くまとまっていますよ。引越してきたばかりの方でも、じっくり読めばいろいろなることが書いてあって、地図も分かりやすくついている。ただ、こういうものを、読み方というか、活用の仕方がわからないお母さんもいるんです。なので、例えば、子どもの乳幼児健診などの場所に、ガイドブックを紹介する方がいると安心すると思いま